

デジタル超音波診断装置「HI VISION Ascendus」が

2011 年度グッドデザイン賞を受賞 [2011.10.04] 超音波診断装置

日立アロカメディカル株式会社（本社：東京都三鷹市牟礼
6-22-1 社長：吉住 実）は、このたびデジタル
超音波診断装置「HI VISION Ascendus」（ハイビジョン
アセンダス）で、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する
2011 年度グッドデザイン賞を受賞したことを発表しました。

「Ascendus」は、超音波診断装置「HI VISION Preirus」
（ハイビジョンプレイラス）、超音波診断装置「HI VISION Avius」
（ハイビジョンアビアス）のシリーズ製品とし、世界最高性能の画質
をめざして、日立製作所の各研究所をはじめとした日立グループの
総力を結集して開発しました。



<超音波診断装置 HI VISION Ascendus の概要>

「Ascendus」は、超音波の送受信回路を一新し、プレミアム機としての高画質化を実現しています。また、画像処理部では、好評を頂いているデジタル信号処理回路 Ultra BE (Ultrasound Broadband Engine) を更に進化させた Ultra BE II (Ultrasound Broadband Engine 2nd Generation) を搭載し、高度な画像処理、新しいアプリケーション機能を実現しています。

また、「Ascendus」は 2009 年度グッドデザイン金賞を受賞した「HI VISION Preirus」のデザインを踏襲し、斬新な外観で操作性を考慮したデザインになっています。特に、モニターとパネルを一回の動作で同時に移動させることができ、さまざまな検査姿勢に対応した位置調整が可能です。大画面液晶モニターには、タッチパネルを組み込み、画像観察中にモニターから目を離さずに装置の操作をすることができます。

さらに、ご好評いただいている組織の硬さを画像化する Real-time Tissue Elastography(以下「エラスト機能」)、CT 装置や MRI 装置と超音波診断装置の断層画像をリアルタイムに並列表示する Real-time Virtual Sonography など、充実した機能を搭載しています。特に、エラスト機能では、世界で初めてエラスト画像をリアルタイムに 3D 表示する 4D エラスト機能*1 を搭載しています。

「Ascendus」は、HI VISION シリーズの最上級機と位置付けており、世界市場をターゲットとする画期的な製品です。

<グッドデザイン賞>

「グッドデザイン賞 (G マーク)」は、1957 年に通商産業省によって設立された「グッド

デザイン選定制度」を継承し、1998年より財団法人日本産業デザイン振興会の主催事業として運営される、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度です。これまで50年以上にわたり、新しい時代の文化と生活を創造することを目的に、「より豊かなライフスタイル」と「良いビジネス」を導く運動として展開され、のべ受賞件数は35,000件以上にのぼり、今日では国内外の多くの企業や団体が参加しています。また、「グッドデザイン賞」受賞のシンボルである「Gマーク」はすぐれたデザインを示す象徴として広く一般に親しまれています。

グッドデザイン賞 Web サイトへリンク

<グッドデザイン賞審査委員による評価コメント>

操作パネルのボタン配置や大きさに対して、医療分野や技師毎に相違する課題に対し、使用状態を検証し、最適化を図った課題解決型のデザインである。技師視点からの操作部形態は、実証的プロセスから生まれたデザインとして評価された。また被検者視点からの安心感を与える優しい形態やカラーリング、操作負担を軽減するアプリケーション等も評価された。

<日立アロカメディカル株式会社>

日立アロカメディカル株式会社は、医用電子装置（超音波診断装置など）および汎用分析装置（放射線測定器など）、医用分析装置（検体前処理装置など）の3事業分野におけるリーディングカンパニーです。日立メディコグループの一社として東京に本社を置き、国内39ヶ所、海外14ヶ所（子会社等を含む）を拠点として、150カ国以上に製品を納入しています。事業ステートメント“illuminate the change”（見えないものを見る／変化を照らす）という方針を掲げて、健康や社会の不安を「予知」「予測」「予防」することで、人や社会に安全・安心を提供してまいります。